

「野宮」を歩く

新涼の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は廣田鑑賞会に格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

第七回廣田鑑賞会では、秋の名曲「野宮」を舞わせていただきます。出典は『源氏物語』「賢木」の巻です。六条御息所というと、嫉妬心から生霊となり、源氏の正妻・葵上を取り殺すという恐ろしいイメージが先ず浮かびますが、能「野宮」は彼女の全く違う一面にスポットを当てています。御息所は源氏の前で生霊になった自分を恥じて恋人の前から姿を隠し、齋宮下向する娘とともに野宮で潔斎の日々を送っています。しかし、源氏への想いは断ちがたく、彼を訪ねてきてくれた秋の日のことが蘇ります。加茂の車争いのざわめきは、野宮を訪ねる源氏の車の軋みにも重なり、風の音、虫の声・・・想い人の訪れを待つ時の何気ない音の描写に、彼女の深い心情が伺われます。御息所の純粹な姿に秋の風情が重なり、より一層の美しさを感じる曲です。

伊勢へ下向する齋宮が潔斎した野宮神社は、JR嵐山・京阪嵐山駅近くにあります。貸自転車周辺に史跡を廻るのもいいでしょう。神社の黒木の鳥居は、この野宮神社と丹後大江山にある元伊勢内宮皇大神社の二つだけといえます。過日訪れた嵯峨野の野宮は、夕暮れ時だったせいか人影も少なく、竹林を吹き抜ける風の音が、源氏物語の世界をわずかに感じさせてくれました。源氏が野宮を訪れた旧暦九月七日は、今でいえば十月二十八日ころの晩秋です。黒木の鳥居や小柴垣、野宮の後ろに広がる嵯峨の山々など、歌や物語や能に残された詞を訪ねて嵯峨野を散策してみるのも、一味違う京都観光です。秋の風情と、御息所の深い情感を感じていただけるような舞台を勤めたいと思います。

みなさまのご高覧を、心よりお待ちしております。

平成十八年 長月吉日

廣田 幸稔



野宮神社 齋宮になる皇女は皇居内や、野宮で潔斎したあと伊勢に向かった



中央に天照大神、左右に愛宕・弁財天神を祀る。



野宮神社から嵐山上流に向かう道  
神社周辺には小柴垣と竹林の道が続く



鳥居はくぬぎ、小柴垣はくるもじで作られている。黒木の鳥居は最古の鳥居の形だという

